

療養中 HIV 陽性者 (MSM) における治療と予防行動のモニタリングに関する研究

研究分担者：白阪 琢磨 (大阪医療センターHIV 先端医療開発センター)
研究協力者：岡本 学 (大阪医療センター地域医療連携室)
辻 宏幸 (大阪医療センター感染症内科、公益財団法人エイズ予防財団)
平島 園子 (大阪医療センター地域医療連携室)
上平 朝子 (大阪医療センター感染症内科)
下司 有加 (大阪医療センター看護部)
中濱 智子 (大阪医療センター看護部)
東 政美 (大阪医療センター看護部)
鈴木 成子 (大阪医療センター看護部)
伊澤 麻未 (大阪医療センター地域医療連携室、
公益財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント)
竹花 惇 (大阪医療センター地域医療連携室、
公益財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント)
日高 庸晴 (宝塚大学看護学部)

研究要旨

HIV 陽性者における QOL やセクシュアルヘルスの向上や薬剤耐性 HIV の感染予防や治療継続への支援の視点から、当該集団のライフスタイル全般を対象にした包括的な調査研究の実施が必要と考えられる。とりわけ、HIV 感染判明前と感染判明後の性行動の実態やその関連要因の明確化と変化に関する先行研究はわが国ではない。これらの研究課題に取り組むことは、HIV 陽性者支援を含めわが国 HIV 対策の充実と促進に資するものと考えられる。研究 1 年目は質問紙の開発と研究者所属施設の研究倫理委員会による研究計画の指針を受け、研究実施体制を整備し、調査を開始した。

A. 研究目的

わが国では毎年約1,500名が新たにHIV感染症の診断を受けており、その約7割は男性同性間の性的接触による感染だと報告されている。

日高らの研究(2004)¹によると、ゲイ・バイセクシュアル男性のアナルインターコース時のコンドーム常時使用率は、挿入のみ群で34.6%、被挿入のみ群で33.3%、両方経験群で17.1%と低く、コンドーム非常用群は、常用群に比べ精神的健康度が低い傾向が示唆された。また、同集団を対象に2012年に日高らが実施したインターネット調査(n=9,857)によれば、コンドーム常時使用率は30.5%であることや(嶋根・日高、2013)²、HIV陽性者の生涯性被害経験率はHIV陰性者の1.6倍(AOR1.57, 95%CI=1.10-2.24)であること(Hidaka et al, 2014)³、2種類以上の違法・危険薬物使用生涯経験率は7.8倍(AOR=7.78,95%CI=2.33-25.93)であることが横断調査から示されている(Hidaka et al, 2006)⁴。

さらに、MSMを対象にしたインターネット調査によって示されるHIV陽性者と陰性者のコンドーム常時使用率および薬物使用率を比較し

たところ、陽性者のコンドーム常用率は低下傾向であることも示されている(日高、2013)⁵。

2013年に若林ら⁶が国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターと全国のエイズ診療におけるブロック拠点病院計9か所のHIV陽性者を対象にした質問紙調査(n=1,100)では、55.1%に薬物使用経験があった。同調査のK6尺度によるメンタルヘルスの評価では、21.2%以上が10点以上であることが示され、同調査対象者では心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題を有している可能性が示唆された。若林らの調査では性行動については尋ねておらず、HIV陽性者における精神的な問題と性行動の関連は明らかになっていない。

HIV陽性者が他の性感染症や薬剤耐性HIV変異株の感染を予防するためには、性的接触の際の予防行動を着実に実践する必要があるが、感染判明前と感染判明後の性行動の実態やその変化について明らかにした研究はわが国ではない。

HIV陽性者のメンタルヘルスと性行動との関連と、その経年的変化の現状、さらには変化の要因に関連する要因を明らかにすることによ

り、HIV陽性者の支援と、我が国のHIV感染予防の促進に寄与すると考える。

B. 研究方法

研究デザイン：縦断的研究

自記式質問紙を用い、定期的に追跡するモニタリング調査（連結可能匿名化）を研究1～3年目を通じて行う予定である。

取り込み基準：

- 1) 大阪医療センター感染症内科にHIV感染症を主たる疾患名として新たに受診した者。
- 2) 男性であること。
- 3) 日本語の質問紙に回答可能であること
- 4) 初診から3か月以内、初回答から後6～9ヶ月以内、2回目回答から後12～15ヶ月以内の計3回とし、3回ともに回答することに同意を得ることが出来る者。
また、分析対象者は上記対象患者のうち、男性間の性的接触を経験した者に限る。

除外基準：感染判明後大阪医療センター感染症内科に受診するまでに、他のエイズ診療拠点病院通院歴のある患者は対象外とする。

質問紙の開発

質問紙は、国内外の先行研究、MSMのHIV陽性患者および研究者からのヒアリングをもとに本研究で開発した（別添）。

C. 結果

質問紙の開発

質問紙構成内容は基本属性、性的指向のカミングアウト、過去6ヶ月間およびHIV感染判明後のMSM関連施設訪問経験、性行動、コンドーム使用行動、セイファースックス規範、性感染症既往歴、K6、自尊感情、薬物使用などによって構成した。質問紙を含め、研究計画を大阪医療センター受託研究審査委員会に平成26年10月に提出し、承認され(承認番号：14031)平成27年3月1日より調査を開始した。

配布数15名中、回収は14名であり(平成27年3月末日現在)、現在、配布および回収を継続している。

D. 考察

研究1年目に質問紙開発を終え、研究計画書等は研究者所属施設のIRB審査で承認され、実施体制を整え調査を開始した。

E. 結語

HIV陽性者のメンタルヘルスと性行動との関

連と、その経年的変化の現状とその変化に寄与する関連要因を明確化することは、HIV陽性者支援を含めわが国HIV対策の充実と促進に資するものと考ええる。研究2年目以降モニタリング調査を継続実施していく計画である。

F. 発表論文等

(英文)

- 1) Katano H, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Oyaizu N, Ota Y, Mine S, Igari T, Ajisawa A, Teruya K, Tanuma J, Kikuchi Y, Uehira T, Shirasaka T, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Yasuoka A. : The prevalence of opportunistic infections and malignancies in autopsied patients with human immunodeficiency virus infection in Japan. *BMC Infect Dis.* 2014 , 14:229. Published online.
- 2) Imahashi M, Izumi T, Watanabe D, Imamura J, Matsuoka K, Ode H, Masaoka T, Sato K, Kaneko N, Ichikawa S, Koyanagi Y, Takaori-Kondo A, Utsumi M, Yokomaku Y, Shirasaka T, Sugiura W, Iwatani Y, Naoe T. : Lack of Association between Intact/Deletion Polymorphisms of the APOBEC3B Gene and HIV-1 Risk. *PLoS One.* 2014 , 9(3):e92861. Published online
- 3) Ota Y, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Moritani S, Oyaizu N, Mine S, Ajisawa A, Tanuma J, Uehira T, Hagiwara S, Yajima K, Koizumi Y, Shirasaka T, Kojima Y, Nagai H, Yokomaku Y, Shiozawa Y, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Katano H : Classification of AIDS-related lymphoma cases between 1987 and 2012 in Japan based on the WHO classification of lymphomas, fourth edition. *Cancer Med.* 2014 , 3(1): 143-153
- 4) Tominari S, Nakakura T, Yasuo T, Yamanaka K, Takahashi Y, Shirasaka T, Nakayama T : Implementation of mental health service has an impact on retention in HIV care: a nested case-control study in a Japanese HIV care facility. *PLOS ONE* , 2013 , 8(7) (pp.1-6)
- 5) Watanabe D, Otani N, Suzuki S, Dohi H, Hirota K, Yonemoto H, Koizumi Y, Otera H, Yajima K, Nishida Y, Uehira T, Shima M, Shirasaka T, Okuno T: Evaluation of VZV-specific cell-mediated immunity in adults infected with HIV-1 by using a simple IFN- γ release assay. *J Med Virol* , 2013 , 85(8) (pp.1313-20)
- 6) Yoshino M, Yagura H, Kushida H, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Taniguchi T, Watanabe D, Nishida Y,

Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T : Assessing recovery of renal function after tenofovir disoproxil fumarate discontinuation. J Infect Chemother ,2012 , 18(2) (pp.169-74)

- 7) Shimamoto Y, Fukuda T, Tominari S, Fukumoto K, Ueno K, dong M, Tanaka K, Shirasaka T, Komori K : Decreased vancomycin clearance in patients with congestive heart failure. Eur J Clin Pharmacol , 2012 , 69(3) (pp.449-57)
- 8) Watanabe D, Yoshino M, Yagura H, Hirota K, Yonemoto H, Bando H, Yajima K, Koizumi Y, Otera H, Tominari S, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T : Increase in serum mitochondrial creatine kinase levels induced by tenofovir administration. J Infect Chemother , 2012 , 18(5) (pp.675-82)
- 9) Watanabe D, Koizumi Y, Yajima K, Uehira T, Shirasaka T. : Diagnosis and treatment of AIDS-related primary central nervous lymphoma. J Blood Disord Transfus.S1-001. doi: 10.4172/2155-9864.S1-001 , 2012
- 10) Fujisaki S, Yokomaku Y, Shiino T, Koibuchi T, Hattori J, Ibe S, Iwatani Y, Iwamoto A, Shirasaka T, Hamaguchi M, Sugiura W. : Outbreak of Infections by Hepatitis B Virus Genotype A and Transmission of Genetic Drug Resistance in Patients Coinfected with HIV-1 in Japan. J Clin Microbiol. 50(4):1507, 2012. Corrects: J Clin Microbiol.2011 Mar.;49(3):1017-24

(和文)

- 1) 白阪琢磨 : DHHSガイドラインについて - 主な改訂ポイント - , HIV感染症とAIDSの治療、2014年、vol.5 (No.2) (20-23頁)
- 2) 吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、米本仁史、廣田和之、坂東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、桑原健、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨 : 当院における1日1回投与ダルナビル/リトナビルの使用成績、日本エイズ学会誌、2012年、14 (141-146頁)

【研究課題の実施を通じた政策提言 (寄与した指針又はガイドライン等)】

- 1) 抗HIV治療ガイドライン (HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究)、平成25年3月
- 2) 抗HIV治療ガイドライン (HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究)、平成24年3月

- 3) 抗HIV治療ガイドライン (HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究)、平成23年3月

G. 引用文献

- 1) 日高庸晴、市川誠一、木原正博. ゲイ・バイセクシュアル男性のHIV感染リスク行動と精神的健康およびライフイベントに関する研究. 日本エイズ学会誌. 2004;6:165-173
- 2) 嶋根卓也、日高庸晴、松崎良美. インターネットによるMSMのHIV感染予防に関する行動疫学研究 - REACH Online 2012 - . 平成24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究」平成24年度 総括・分担研究報告書. 2013;92-146
- 3) Yasuharu Hidaka, Don Operario, Hiroyuki Tsuji, et al. Prevalence of Sexual Victimization and Correlates of Forced Sex in Japanese Men Who Have Sex with Men. PLOS ONE. 2014;9:Issue 5:e95675
- 4) Yasuharu Hidaka, Seiichi Ichikawa, Junko Koyano, et al. Substance use and sexual behaviours of Japanese men who have sex with men: A nationwide internet survey conducted in Japan. BMC Public Health. 2006; 6:239 doi:10.1186/1471-2458-6-239
- 5) 日高庸晴. Web調査から見えること 性行動、検査、予防、薬物使用行動. シンポジウムMSMの感染予防とその課題 - 多角的な視点から考える. 第27回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2013
- 6) 若林チヒロ、生島嗣、大槻知子、他. IV陽性者の生活と社会参加に関する研究. 地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究 平成25年度 総括・分担研究報告書. 2014;39-96